

私立 灘中学校・高等学校 橋先生 北浦先生 中村先生

今回は、定期試験等でデジタル採点ソフト『採点ナビ』をご活用いただいている
神戸市私立灘中学校・高等学校の橋先生、北浦先生、中村先生にお話を伺いました。

インタビュー日 2021年8月10日



※新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用でご対応いただきました。

デジタル関係化・校務情報化推進の 一環として『採点ナビ』導入を検討。

まずは自己紹介からお願いいたします。

橋先生：教科は国語を担当しています。

当校に来たのは7年前になります。教務主任を担当しており、採点ナビ導入にも関わることになりました。

北浦先生：教科は英語を担当しています。

現在中学2年生を受け持っています。また総務部も担当しており、その立場からもデジタル関係の推進をしていきたいということで、採点ナビを校内で広げる活動に取り組んでいました。

中村先生：教科は理科を担当しています。

前任校で採点ナビを使っており、この学校内でも一番に使い始めました。

導入のきっかけは、『採点ナビ』お試し版の 評判が、草の根的に広まりました。

・設定のしやすさが『採点ナビ』の一番の良さ

導入の経緯についてお聞かせください。

弊社には、前任校でご利用いただいていた中村先生からお声がけいただきましたが、それ以前はデジタル採点のような製品の検討はあったのでしょうか？

北浦先生：個人的には色々調べていました。それぞれICT関係の展示会にも参加して「何か使えるものはないかなあ」と探していたんですけども、実際にソフトを使う機会というのはなかったですね。



左から 橋先生 北浦先生

今回、『採点ナビ』を含め、デジタル採点ソフトを正式に導入検討しよう、となったきっかけは何かあったのでしょうか？

北浦先生：正直な話、先に採点ナビのお試し版を使っていた中村先生が私の後ろの席なので、中村先生が使っている所を見て「いいなあ」と思ったのがきっかけですね(笑)。

中村先生：あとはそれが学年主任にも伝わって……。システムチックに導入を進めたというよりは、草の根的に広まっていった感じですね。

北浦先生：正式に導入を進めようとなった際は、他社比較も必要になってくるので、そこは教務部・総務部が連携を取りながら進めていきました。

比較検討、というお話ですが、何社ほどご検討をされましたか？

橋先生：実際に操作を試したのは3社でした。実は一番初めに試した他社のソフトは設定が難しくうまく使えなかったんです。

具体的には用紙の四隅に黒い印が必要なのですが、その位置の判定が思っていたより厳しくて。それに比べ『採点ナビ』は設定が簡単で、まずは一通り使ってみたところ操作がスムーズに進みました。そこで個人的には『採点ナビ』の得点が上がりました(笑)。設定のしやすさが『採点ナビ』の一番の良さかな、と思います。定期テストであれば、それなりに時間をかけて準備の時間もとりますが、日々の小テストなどでも使うことを考えると気軽に使えるということは大きなポイントになります。

デジタル採点の導入を進めていく上で、他の先生への普及も重要な要素と考えますが、障壁となるものはございましたか？

北浦先生：これはそもそも、というところになりますが、先生方がそれぞれ持っている自分の採点スタイルを多少なりとも変えていただく事になるので、そういった心理的な部分が一番の障壁でしたね。

先生方のデジタル化への拒否反応を減らすためには、機能の充実度よりも、「いかに分かりやすく簡単に出来るか!」の方が重要になってくると思っております。

事前設定が簡単で、操作が分かりやすい。 だからデジタル採点に移行しやすかった。

そういった部分で言うと、やはり『採点ナビ』の使い勝手が評価をいただいた点になりますでしょうか？

中村先生：そうですね。いざ使う時に事前設定が煩雑になりすぎると、採点を始める前に熱が冷めてしまうので……(笑)。

北浦先生：一度設定でつまずくと、次も使おうという気持ちには中々なれないですね。そういった意味ではどうやって先生方に広めていくか……というのは気を使いました。

そして、広める立場から3社の中でどれが説明しやすいかを考えた時に『採点ナビ』だな、と思いました。変な話デジタル採点に入門してもらうには、このソフトだ!と。

橋先生：デジタル採点をする上では、いかにルーティン化しやすいかも重要な気がしますね。解答用紙のスキャンの仕方、画像の取り込み方など……。PCに不慣れな先生でも、設定方法を一度確立してしまえば、かなり楽になると思います。

手採点から『採点ナビ』に移行して 得られた効果は絶大です！

- ・自動計算により採点の計算ミスがなくなる
- ・得点計算作業の大幅な短縮
- ・複数人分の解答を一括表示ができるので、採点のプレが少なくなった
- ・添削コメント登録機能により、採点基準が明確になった

…etc.

_____実際に『採点ナビ』をご利用いただいて、これまでの手採点から何か変わった部分がありますでしょうか。

橘先生：生徒の解答を複数人分一括表示ができるので、採点のプレが少なくなりました。最初にざっと何人かの解答を見ると傾向が分かるので、採点基準をある程度決めてから採点できるんです。機能の一つで添削コメントを登録できますよね。そこに基準になるような添削内容を登録しておく、基準も明確になるし添削も行いやすく、便利に使っています。

中村先生：あとは、ソフトが計算してくれるので当然ですが、得点の計算ミスが無くなりましたね。生徒へテストを返却した後に、「先生、この採点が違います」と言われる事もかなり少なくなりました。

北浦先生：確かに得点の計算作業はかなり時間を取られていたので、そこが無くなったのは大きいですね。

_____AI採点機能はご使用いただいていますか？
使用していただいている場合には、感想をお聞かせください。

橘先生：はい、使用しています。認識精度はかなり高いと思います。目で見てかなり癖のある字でも、ちゃんと認識してくれています。ただ、問題点としては解答欄の枠から生徒の文字がはみ出てしまっていると認識が上手くできなくなってしまう点ですね。

中村先生：それは確かにありますね。その分、AI採点を使う問題は解答欄を大きくしたりしています。

北浦先生：解答欄を大きくすると生徒の書く文字も大きくなるので、イタチごっこになるんですよ(笑)。



_____ご導入はしていただきましたが、初年度ということで、まだ全ての先生が『採点ナビ』を使っていただいているわけではないと思います。現状は何名程度にご利用いただけておりますでしょうか。

北浦先生：現状では、テストを行う教員のおよそ半数程度が利用しております。

_____御校では、ブラウザで行えるデジタル採点システムも同時並行的にご利用いただいているとお聞きしましたが、現状はおおよそその程度のご利用比率なのでしょうか。

北浦先生：デジタル採点を行っている教員の8割弱が『採点ナビ』を利用しています。ブラウザ版の良さもあるので、ICTに詳しい先生、若い先生はブラウザシステムも使っておりますが、まだまだ大多数は入門編です。



デジタルに抵抗感を持つ教員のために、 分かりやすい画面設計が利用率増加の鍵。

_____利用率の増加に関しては、どのような点が今後の課題になりそうでしょうか。

北浦先生：新たな機能をどんどん増やすというよりは、ユーザーインターフェースをさらに分かりやすくしていただきたいですね。

「色々できる＝使いこなせない」に通ずるところがあります。デジタルに抵抗感を持っている教員は全国的にまだまだ多いと思うので、分かりやすさをさらに突き詰めていくと、もっと爆発的に広まるんじゃないかと思います。

中村先生：確かに。色んな種類の結果表が出せるようになっていますが、正直1~2種類しか使っていない先生が多いと思います(笑)。

知らないボタンを押すのは怖いんですよね。いかに初心者に優しい画面になっているかは本当に重要だと思います。

橘先生：私も同意見です。他社と比較した時の『採点ナビ』の良さは、分かりやすさなので、その強みをさらに伸ばしていただきたいです。

_____貴重なご意見をありがとうございます。
今回伺った点も含めて、今後も採点ナビの改善を進めていきたいと思っています。改めまして、本日はお忙しい中ありがとうございました。

